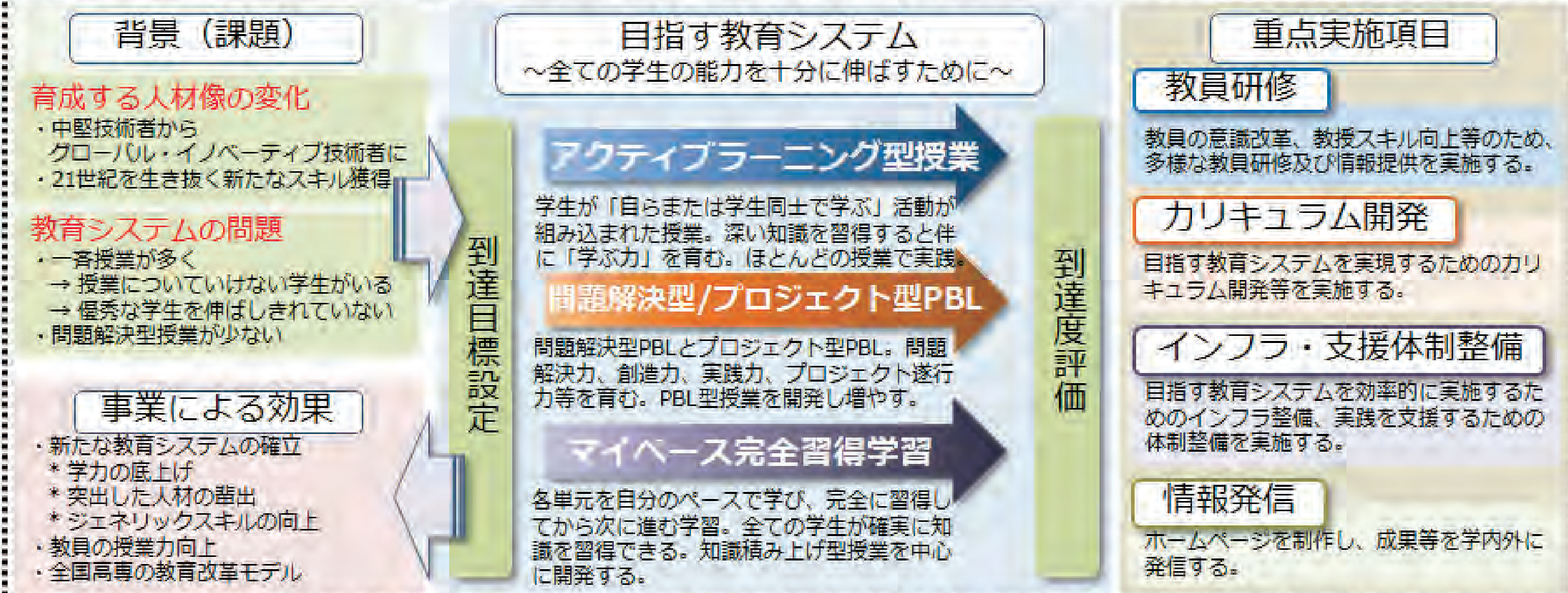


全ての学生の能力を十分に伸ばす教育
—“A³” システム構築と “アクティビティ + CBT”—



本取組では、教育システムを抜本的に改変し、次世代型教育システムを構築・実践する。目指す教育システムは「全ての学生の能力を十分に伸ばす」ことを念頭に置いた、(A)アクティブラーニング型授業、(B)2種類のPBL、(C)マイペース完全習得学習から構成される。これを実現するために、教員の教育能力開発、カリキュラム開発、インフラ・支援体制整備等を重点的に実施する。これにより、深い専門知識を有し、21世紀を生き抜くスキルを持った人材、並びに、新しい分野を切り開く有益な人材の育成を目指す。



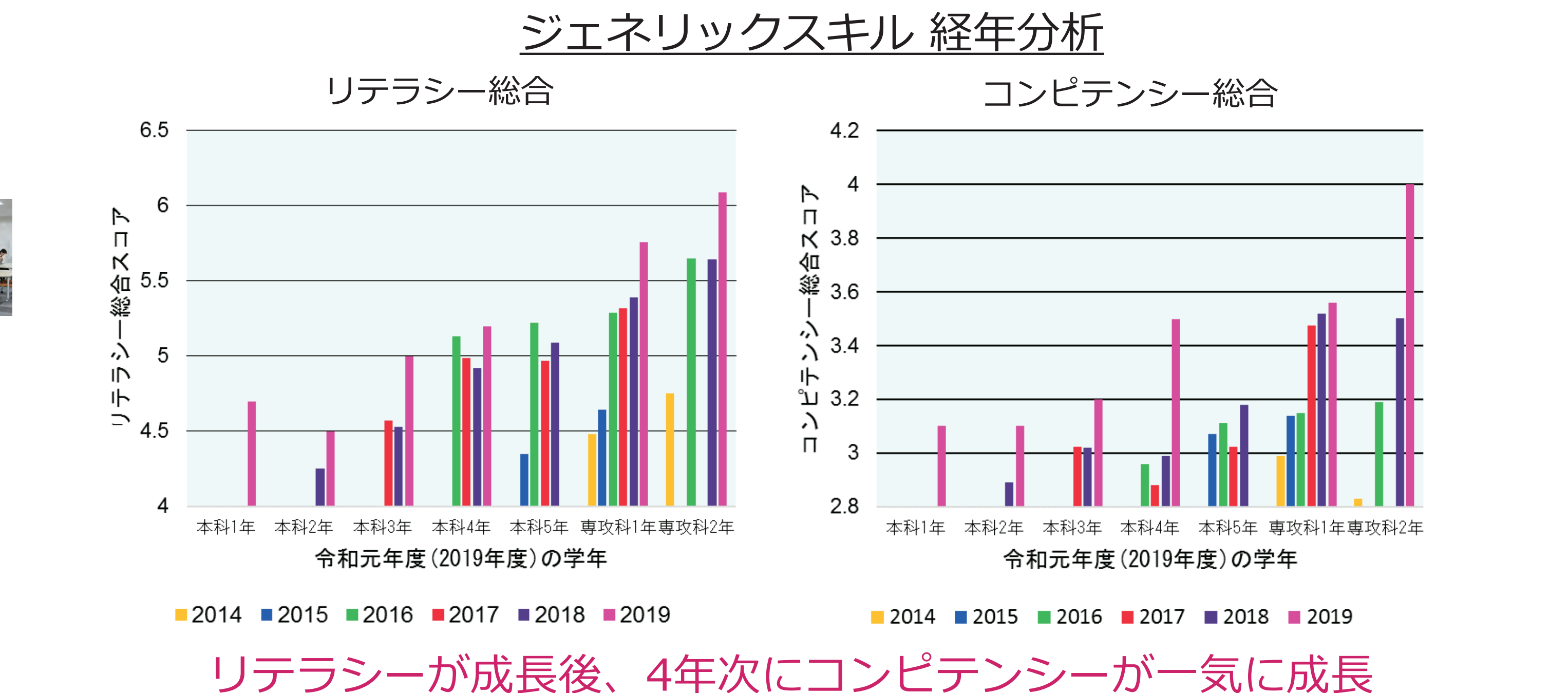
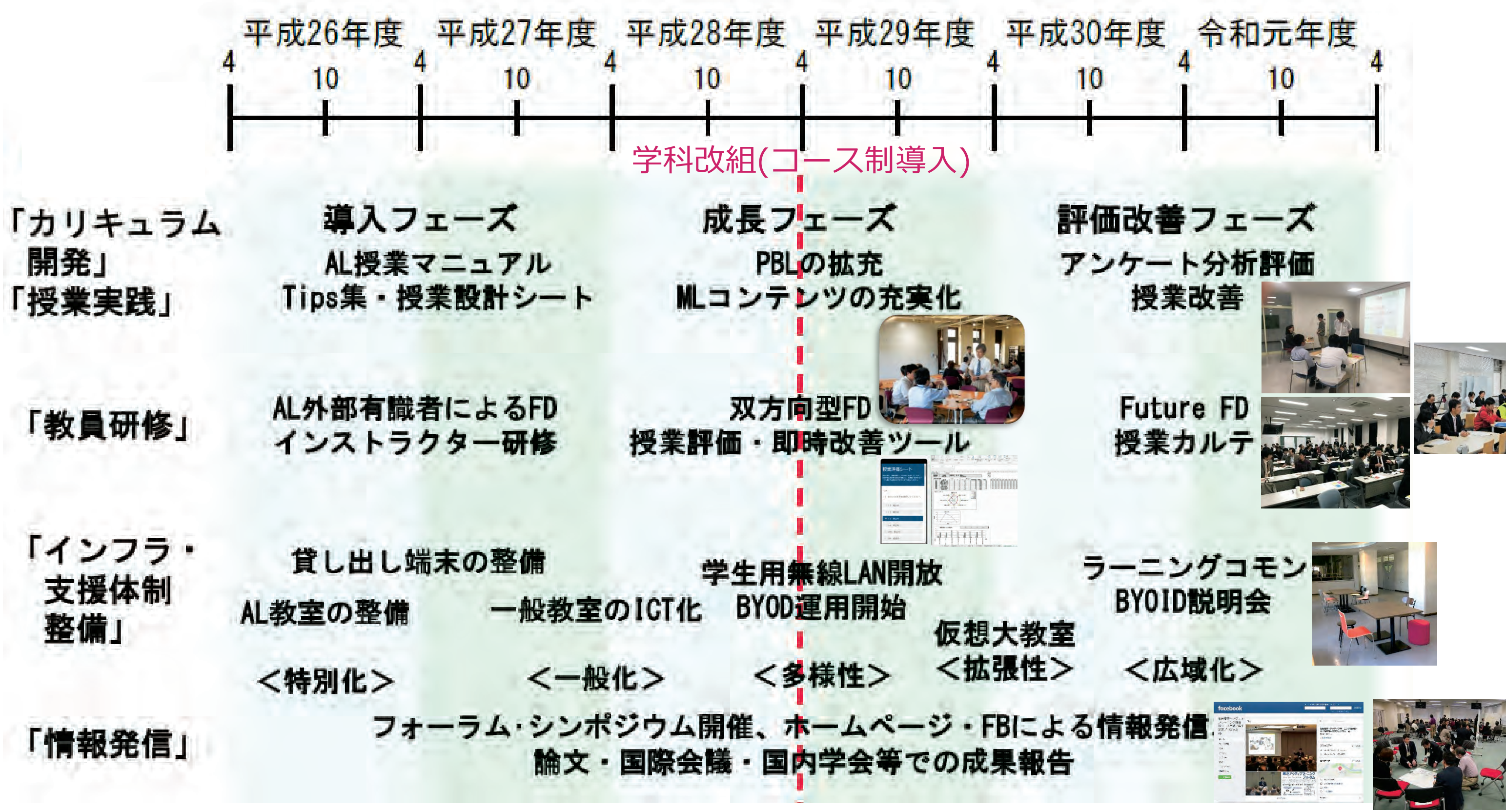
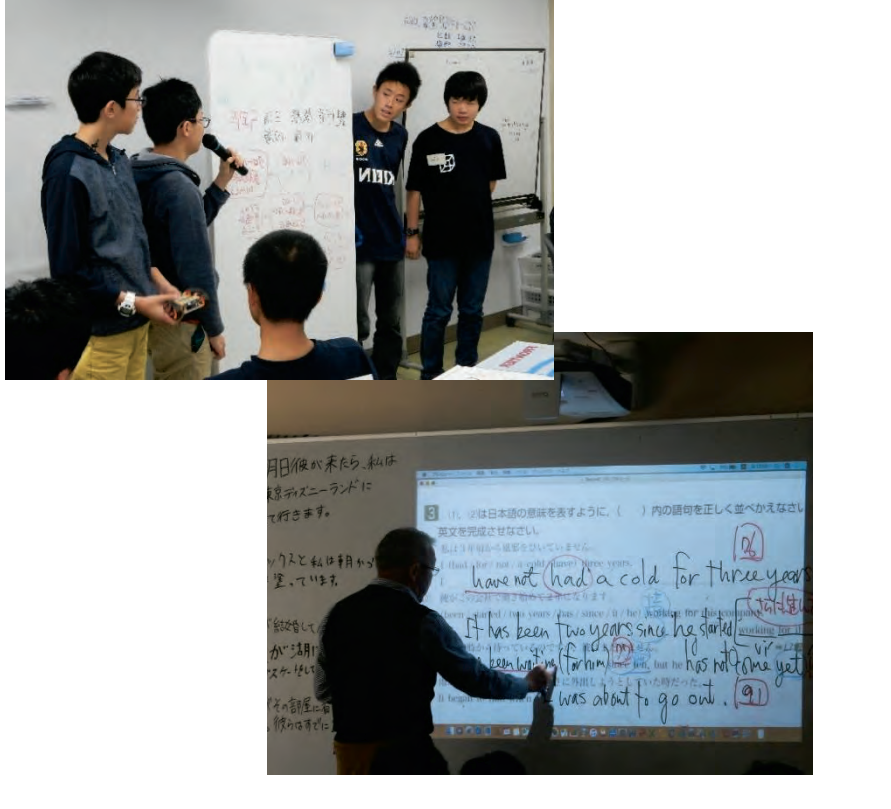
	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績
アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合	37.8%	73%	80.3%	83.7% (※1)	84.6% (※1)	87.4% (※1)
アクティブ・ラーニング科目のうち、必修科目数の割合	68.9%	65.5%	61.9%	60.3% (※2)	63.1% (※2)	64.9% (※2)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	95.5%	100%	100%	100%	100%	100%
学生1人当たりアクティブ・ラーニング科目受講数	8.1科目	8.7科目	14.1科目	12.3科目 (※3)	11.9科目 (※3)	13.2科目 (※3)
アクティブ・ラーニングを行う専任教員数	62.7%	70.2%	96.8%	98.3%	95.8%	98.3%
学生1人当たりアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学習時間 (1週間あたり)	3時間	14時間	13.8時間	15.3時間	15.1時間	学生授業評価アンケート後集計方針
アクティブ・ラーニングに関する研修会等実施できる能力を有する教員	16人	30人	38人	38人	39人	39人
アクティブ・ラーニング型授業科目開発数	1科目	18科目	378科目	297科目 (※1)	312科目 (※1)	325科目 (※1)
PBL科目開発数	調査	設計	9科目	13科目	20科目	44科目
マイペース完全取得学習科目開発数	0科目	8科目	11科目	14科目	58科目 (※4)	58科目 (※4)
アクティブ・ラーニング教室	3教室	4教室	11教室	14教室	14教室	14教室
コモンスペースの整備	-	-	3か所	3か所	7か所	10か所
校内無線LAN学生開放	-	-	50%	100%	100%	100%

※1 クラス毎に複数教員分担の同一科目：H28は教員毎に換算したがH29、H30、R1はまとめて1科目とした。アンケート回答を数値化し、合計点が30点以上の科目の割合。

※2 選択科目でもアクティブ・ラーニング導入科目が増えたことにより、相対的に割合が下がった。

※3 H28と比較して授業科目数が減少したことに起因する。

ほぼ100%の教員がアクティブラーニング要素を取り入れている



なりた自分になるロボティクスコースカリキュラム
「アクティビティ + CBT (Computer Based Training/Testing)」

アクティビティ
”やりたいこと”と”科目”と関連付けるテーマを設定し、複数科目を包括する1日の授業として実施する。

科目例
1校時 電気回路
2校時 製図
3校時 実習
4校時 実験

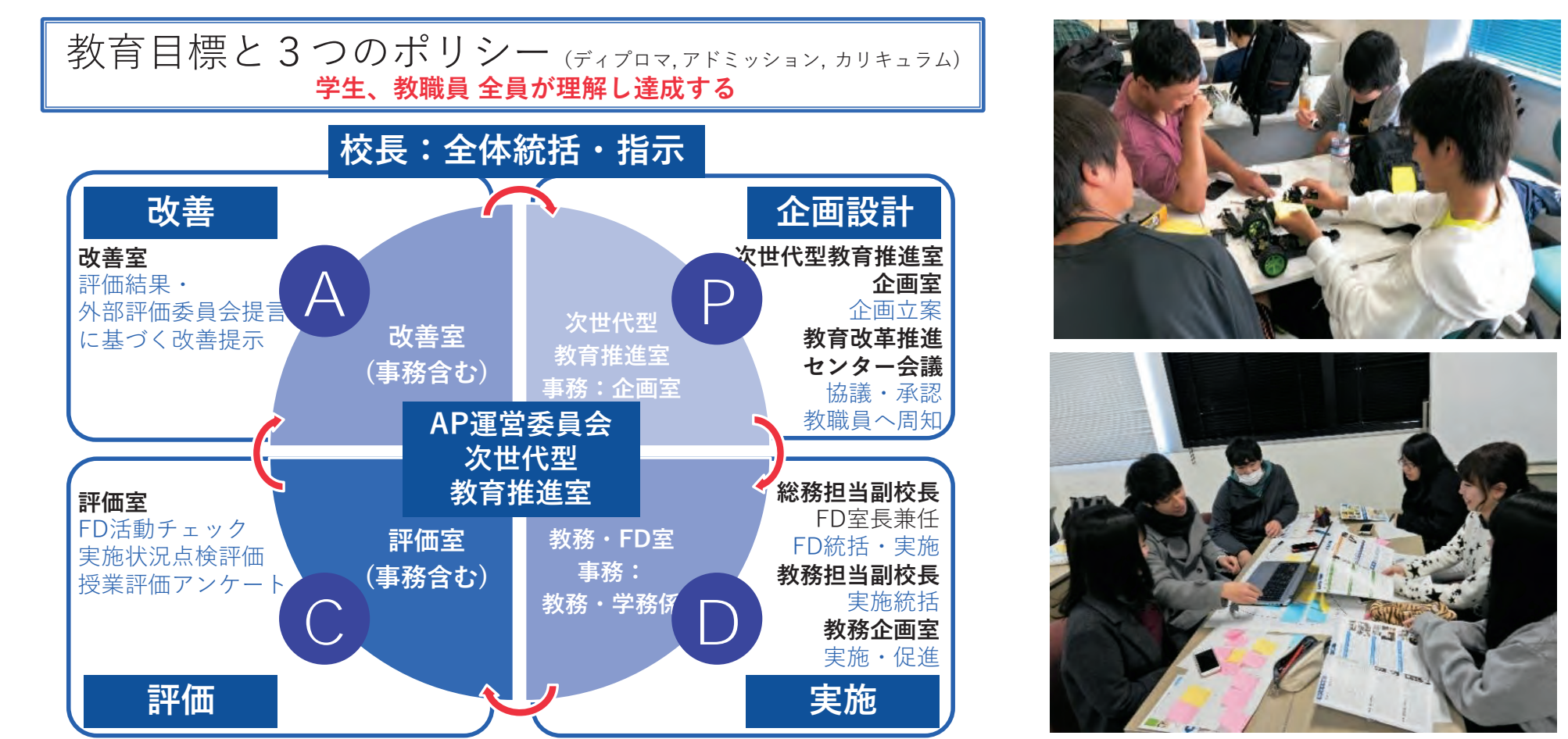
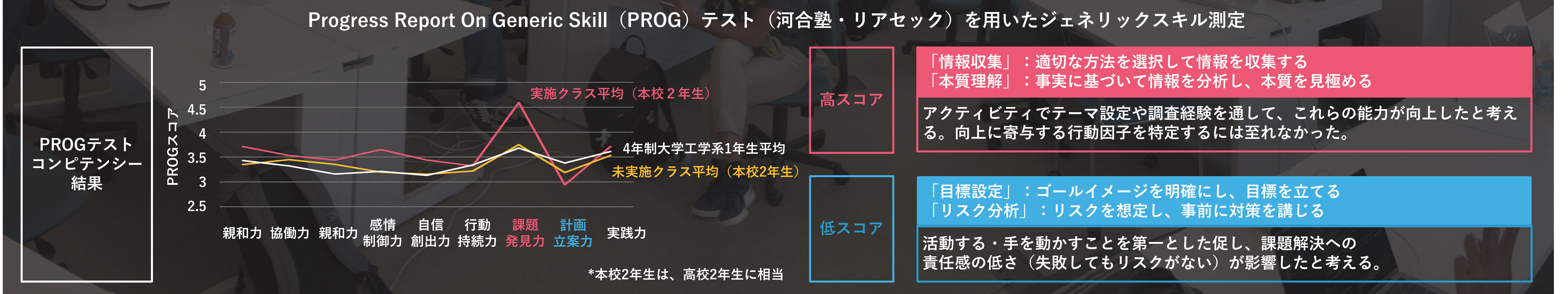
座学 ▶ 課題解決の課程で習得
定期試験 ▶ CBT
教員主導 ▶ 学生主導

科目に関連したプロジェクト

CBT
学生自身の知識習得に対するアセスメントと、定期試験に代わる単位認定のための仕組みとして活用

節約率
再記憶に必要な時間
この長さを成績に
リマインドメール
時間

・校外で自身の端末を使用して受験できる
・いつでも、何度でも受験できる
・解説が表示されるので、受験自体が学びになる



AP 6年間の取組により、

- ・学内組織全体による教育改善推進基盤 実現
- ・教員意識改善、授業力向上、教育環境改善 実現
- ・全国高専・大学、地域小中高・自治体との連携 実現
- ・AP終了後も継続展開可能な体制・環境 実現

全ての学生の能力を十分に伸ばす教育基盤確立実践。継続展開へ